

〔科目名〕 開発経済学—貧困(束縛)からの自由を求めて —「共創空間」で貧しき経済人の生き方を問い直す旅—	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 大場裕之 Oba Hiroyuki	〔オフィス・アワー〕 時間:集中講義中、いつでもOK 場所:教室、教員控室	〔E-mail〕 hooba@reitaku-u.ac.jp
〔科目の概要〕 - この科目では、開発経済学(近代経済学)が前提とする人間観(合理的経済人)を示した上で、「共創」の視点から、その人間観、特に心貧しき経済人の生き方(way of life, lifestyle)を問題とし、新たな判断軸(共創マインド)を身に着けることを狙いとする。 - この目的のために、ビデオ教材を用いて、日本や世界を共に旅をしながら、旅先の心貧しき経済人(経済的に豊かな人も含む)の生き方について、共創技法(共創空間開発、略称 CSD)によって、「問い(問題)」や様々な「答え」を発見すると同時に、彼らを「鏡」として日本人や自分の生き方を問い直す。 - 旅先としては、日本(青森県)や、成長著しい南アジア(インド・ブータン)とする。「自由」、「豊かさ」、「幸福」、「健康」、「飢え渴き」、「日本化」などをキーワードとして、貧しき経済人の生き方を具体的に考える。 - この科目で実践する「共創」の旅を通じて、“経済人(の合理性)”の魅力と落とし穴に気づき、“共創人”として、日々の生き方の質、人生の質を高めるヒントを掴むことが期待されている。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・「学んだことは、何に結びつくか」 ・この科目は、経営学や心理学、開発論、モチベーション論、コミュニケーション論、意思決定論、ライフスタイル論などと関連しており、一つの専門分野だけでは、解決できない問題を取り上げる。 ・学んだことは何に結びつくのか？ ① 「共創マインド」を習得することによって、日々の生き方・生活の質を引き上げ、人生の様々な局面における価値判断や意思決定をする時に役に立つ。 ② 「共創マインド」を習得した人財として、将来のあらゆる職業(国際機関、国、地方団体、民間企業、NPO機関など)に結びつき、経済開発だけではなく、商品開発、人材開発、地域開発、社会開発、モチベーション開発などのプロフェッショナルとして、また問題発見・問題解決能力を有する<共創>エキスパートとして活躍できる。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 4つのポイント - 経済合理性の視点を吟味し、「共創的視点」を持つために、CSD 技法を実践すること。 「共創空間」でキャッチボールしながら、具体的な問いを発見し、1+1=2 だけではない答えを探究すること。 - 貧しき経済人の考え方・感じ方を CSD 技法によって、具体的かつ客観的に「見える化」し、どこに問題があるのか、共に発見し、その原因と解決策を明らかにするスキル(価値判断力、問題発見・解決力、コミュニケーション力などコア・ライフ・スキル)を習得すること。具体的には、聴く耳を持てるようになること、自己表現力を身につけることができること、他者との協働による“気づき”が可能となること、プレゼンテーション能力およびリポーティング能力を磨くこと。 「共創空間」で共有化された問題を考えることにより、学ぶことの意味や意義が明確となり、自分の生き方と向き合うことによって、生きる意欲が生み出され、自らの日々の意思決定や将来設計に役立つ。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 2022/6(一部19年と20年) (1) 授業評価に関する全体的な印象 授業中の真剣な態度とアンケートの設問(全 11 項目)に対する前向きな回答とがほぼ一致していたので、嬉しい限りです。より達成感のある授業を目指すために、以下の 5 点について、確認し、より明確化し、受講生とともに、共有化したいと思います。 ① 問1 (授業内容はシラバスと合っているか) について: シラバスはあくまでもガイドライン (昨年度の実績ベース) であり、授業は、キャッチボールしながら学生たちと共に創っていくスタイルなので、シラバス自体が毎年カイゼンされることを了解願いたい。 ② 問2 (成績評価の基準の明確化) について: 最初の授業で明確に基準を提示するので、最初の授業を逃さないように。基本的には、学習態度と学習成果を評価する。具体的には、授業で実施する「共創空間」での貢献度(活動成果)と共創リポートによって評価する。 ③ 問3 (質の高い授業内容) について: 質の高さは、新しい知見が得られる達成度の高い授業を目指している。あるテーマについての固定観念から解放され多様な視点を身に着けること、また、ものごとの本質を捉える能力を磨くことに主眼を置いている (後述の学生から提起された改善の提案や要望の項目を参考)。		

④ 問9 (学生の質問・相談への配慮) について: 集中講義という性格から、短期間なので、授業中もしくは授業開始前や終了後に相談に乗ります。

⑤ 問10 (自習時間) について: 集中講義なので、**講義を受講するにあたって予習する課題(事前学習)の時間と講義終了後に実施するレポート作成の時間(見込み)を「自習時間」と見做してください。**

(この授業を通じて、開発の新たな意味の発見や、開発経済学的前提となる、いわゆる“合理的経済人”を問い直すことの大切さを参加者全員で体験・共有化することは、大学生活や就職だけではなく、必ず一生の宝となるはずです。)

(2) 自由記載欄の学生の意見とそれに対するコメント (⇒の部分)

(優れた点)

・学生の意見を尊重し、学生と共に授業を作り上げていくスタイルが他の授業にないオリジナルかつ面白い授業であると思います。考えることが苦手な私でも集中して興味深く取り込みました。

・常に面白く、ジョークを交えながら、真面目に意見交換のできる質の高い授業を受けることができ、幸せでした。

・ゼミで行っているディスカッションとは違う、ホワイトボードを使った共創マトリックスは、とても内容が濃く、新鮮でした。⇒「共創空間」を創るプロセスの中で、価値観の異なる他者と向き合うこと、そして自分と向き合うことができる。1人1人の自由意思が尊重され、自由を味わうことができる。新たな価値創造を体験できる。

・共創マトリックスを使って、様々な意見を聴きながら、いろいろな見方ができる。

・共創マトリックスを使って様々な設問(問いの発見)を考えていくことが非常に楽しかったし、勉強になったこと。問いを見つけたり、考え方を知ったり、自分にとって非常に貴重で有意義な時間を得ることができた。15回ではなく、30回の講義でもっと時間をかけて勉強したかったです。

・(ビデオ教材の)映像を見てよりよく知ることができた。自分の価値観が変わった。

・コミュニケーションを大事にしている点。楽しい!

・自分の意見は勿論、他の人の意見をよく知ることができ、自分の知識として蓄積されるという点。

・なぜこの授業が集中講義なのかというくらい、みんなに受けて欲しい授業だなと感じました。

・ホワイトボードなどを用いて、共創空間を考察するため、自分が教員になったつもりで積極的に参加できること。

(問題点)

・学生数が少ないと意見の数も少ないので、もう少し人数が欲しかった。⇒是非、参加してみてください!!

(改善の提案や要望)

・(特になし)

以上

(学生に一言アドバイス)

1. アンケート調査の質問項目の9(オフィスアワー等)については、集中講義という短期間なので、講義時間や休憩時間で質問や相談に応じられるように工夫しているので、評価するときはそこを考慮してください。

2. また、質問項目の10(週当たりの自習時間)については、成果レポート(「共創レポート」という名称)を作成する時間も織り込んで自己評価してください。

3. 質問項目の1のシラバスと内容が合っているかという問いについては、これは教員が一方的にボールを投げるという前提となっている。しかし、本講義では、シラバス体も、「**学生と共に創る**」という点を評価しているので、どれだけ教員と学生間でキャッチボールされた内容となるのかを評価してみてください。

(念のために) この講義では、開発経済学的前提そのものを問題(合理的経済人の意識・行動)とする「共創空間開発論」の視点で旅します。講義のはじめに、その理由を学生諸君と共に考えたいと思っています。具体的には、開発経済学の基本的な問題と授業で実施する内容(問題=「共創空間」開発)との違い・強調点を明確に示し、双方で合意、納得した上で授業をしたいと思っています。両者とも、共通しているのが貧困(欠乏)問題ですが、前者は「**経済的貧困**」に限定しているのに対し、後者は「**経済人の貧困**」を問題としている点が大きな違いです。

[教科書](事前に配布予定)

大場裕之+ライフスタイル研究会[2013]『「共創空間」で地球を旅しよう～ライフスタイルの再発見～』(Working Paper No. 56)麗澤大学経済社会総合研究センター。

[指定図書]

なし

・大場裕之＋「共創空間」開発プロジェクトチーム[2015]『共創空間開発学のすすめ—知のイノベーションの新技法』麗澤大学出版会。 ・大場裕之＋ライフスタイル研究会[2015]『“共創空間”を開発することの学問的意義—「共創空間開発学」の構築を目指して—』(Working Paper No. 68) 麗澤大学経済社会総合研究センター。 ・大場裕之＋大場ゼミナール[2007]『学問力のすすめ—“活かす”学問を楽しむために』麗澤大学出版会。 ・田中拓男[2006]『開発論—こころの知性』中央大学出版部。 ・我妻和男編著[2005]『光の国・インド再発見』麗澤大学出版会。	
【参考書】 授業時に必要に応じ提示	
【前提科目】 なし	
【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等) ・コースプラン、内容などについての詳細は、授業の開始時に担当の教員から指示される。 ・事前学習として、配布されたテキストを読んで、印象に残ったこと、疑問に思ったことなどをレポートにすることを課す。 ・授業中にディスカッションのために必要となる基本的知識を習得するためのクイズ形式の課題を毎回行う。 ・共創マトリックス手法を活用した全員参加型の授業を行うため、そのための予習・復習が必要となる。 ・ディスカッションによって得られた成果やさらなる問題・疑問について、発見メモを作成すること。 ・この講義を通じて最も関心を持ったことや役に立ったことについて発表するチャンスを用意する。 ・この講義の最後には、5日間を振り返る総括討論を予定している。 ・期末試験は実施せず、達成度（学習成果）を評価する「共創」レポートに置き換える。	
【評価の基準及びスケール】 成績評価は、「共創空間」の体験に基づく、「共創＝スマイル」評価に基づいて実施する。「共創」評価は、達成度と社会貢献度という2つの基準によって構成される。評価基準のウェイト付けは、各々50%とする。 その詳細は以下の通り。 1. 達成度（60%） 1) 事前テキスト学習レポート（A4サイズ：1～2枚程度） 2) 出席状況 3) 発見メモの提出（毎日の授業終了時、5回） 4) 「共創」レポート（「共創空間」を活用した授業の成果をまとめたもの） 提出期限：2023年01月23日（予定） 2. 社会貢献度（40%） 「社会」とはこの講義に参加した受講者への貢献を指す。 1) 「共創マトリックス（共有化ツール）」（マグネット使用）への参加 2) ディスカッション（ボールによるキャッチボール）への参加 3) プレゼン（事前課題プレゼンで始まり、振り返りプレゼンで終わる）	
【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】 ・教員としてこの授業に取り組む姿勢 この科目は、開発経済学が前提としている人間モデルを問う新しい試みであるので、現行の学問の専門知識にのめりこまずに、問題を発見すること、関心を持つこと、高めることに主眼を置いている。また、“ラクする楽しみ”ではなく、“共に創造する楽しみ”を共有すること念頭において取り組む。さらに、「共創空間」というスペースの中をタイムマシンの飛行機(?)に乗って、現在の地球だけではなく、過去と近未来の地球を飛び回ることによって、学生諸君一人一人の「よい(良い・善い)生活・人生」探しのためのヒントを提供したいと思っている。 ・学生への要望 対話形式、キャッチボール(ドッチボールではない)スタイルの講義なので、積極的な学生が望まれる。講義の基本方針に基づき、自由に意見を言える場なので、その主旨を十分理解し、各自が責任をもって参加すること。なお、「共創」レポートの書き方については、授業時に説明する。ただ単に知識を鵜呑みにせず、絶えず問うことを大切にしてほしい。また、楽(ラク)する楽しみではなく、“脳ミソに汗をかく”楽しみ方を是非発見してほしい。	
授業スケジュール(受講生のニーズに基づいて一部変更する可能性あり)	
DAY 1 (12/21) 旅立ち スマイル	テーマ1: 貧しき経済人を問題とする旅— 開発経済学が前提とする“経済合理的人間”の貧しさとは？ 内 容: 経済合理的(損得で動く)人間に存在する貧しさを吟味する共創への旅によろそ！ ◎学問力のすすめ 気づいたこと、おやっと思ったこと、「問い」を発見する意欲が欠乏している？

1～3 講 「共創空間」の中で日本からインドへ旅立つ 束縛からの自由を求める希望の旅	この意欲の欠乏こそが、「貧しさ」の正体。従って、意欲だけではなく、様々な欠乏を探す旅となる。 わたしたちは、<u>経済人</u>ですか(自分を経済人と思ったときある)? <u>好き・嫌い?</u> <u>経済人としての貧しさ(欠乏): 気づいている、それとも気づいていない?</u> ⇒<u>貧しき経済人</u>とは、「自分は正しい」として、他者軸の欠乏した自己中心的人間。 <u>旅立ち: 関心のある経済人? 音楽好きな経済人?? この経済人の「貧しさ」とは何???</u> ⇒「音楽」が共通ボール。好きな音楽・嫌いな音楽=よい音楽・嫌いな音楽? 「1+1=2?」の発見 <u>☆公立大学でのキャンパスライフ、楽しんでるか=ラクしてるか?</u> 「ラクして楽しむ」合理的な生き方がなぜダメなのか? テーマ2: 貧しき経済人がたどる人類の道とは? 内 容: 「束縛から束縛」への道(仮説)を提示する。①束縛(貧困)からの欠乏している自由を求める希望の旅、②自由から欠乏している富を求める飛躍の旅、③富から欠乏している自己満足を求める安楽の旅、④自己満足から無関心に支配される暗闇の旅、⑤無関心から束縛(貧困)への暗黒の旅、⑥束縛(貧困)の悪循環から欠乏する真の自由、真の豊かさへ脱却するヒントをつかむ旅。 ⇒「1+1=2?」へのチャレンジ 2 以外の答えに気づかなくなった経済人を問題視。 ⇒果たして“<u>経済人</u>”は束縛(貧困)の罠から脱出できるのだろうか? <u>経済人から「共創人」モデルへシフトし、i「共創マインド」を持つことが脱出の糸口。</u> テーマ3: インド映画『きっと、うまくいく』(前半 85 分)を観て、貧しき経済人を探す旅: 内 容: インド映画に登場する若い経済人の素顔を知り、関心を持つ=「問い」を発見すること。 <教科書・指定図書: 教員作成のレジュメ・資料による>
DAY 2 (12/22) 花 4～6 講 インド: 自由から 富を求め る飛躍の 旅	テーマ4: インド映画『きっと、うまくいく』(前半)を観て、<u>自由と富を求める、貧しき経済人</u>を考える旅: 内 容: <u>映画に登場する人物: どのような自由を求めているのか? ラクする自由には“落とし穴”がある? <楽しむ自由にも“落とし穴”がある? ></u> ・自分たちに関わる重要な問い(=大学教育)を立て、共創(コクリ)する。問い1: 大学(教育)とは点の取り方を教えるところ? 問い2: 大学(教育)は、人生の競争に勝つためのものか? <u>大学教育に対する見方において、どの自由を選ぶか?</u> <u>自由を得ると、人は富を求めるのか?</u> <u>経済的富: 「おカネがすべて」なのか?</u> 夢を与える仕事とどう関連するのか? —インド経済人を「鏡」として考える— 「人生は競争」なのか (欠乏ゆえに) どのような自由を求めているのか? <u>束縛からの自由、そして、富への自由。</u> カネがあれば何でも(買うことが)できる? 過去の時間と現在・未来の時間: <u>今の時間も?</u> いのちや愛も? 移動時間(タクシー代行サービス、飛行機か新幹線か?)、家事労働時間、 講義ノート代行サービス、…… 遊び時間をカネで買う経済人(友人・知人)に講義ノート貸してくれ、と頼まれたとき、引き受けるか、それとも引き受けない? ⇒<u>損得的判断基準を問う。自分本位的(自分にとってメリットがあれば OK)か</u> <u>他者本位的か?</u> ⇒<u>思いやりや信頼、友人愛という基準で判断しているのか? (非合理的判断かもしれないが)</u> (参考 1): 「富」はなぜ拡大したのか? W.バースタイン仮説 過去 200 年: 持続的な富の増大 なぜ可能となったのか? ①私有財産制 (中国説明できる?)、②科学的合理主義、③ふんだんな資金が効率的に投資に向かうような資本市場、④強力かつ効率的な輸送・通信手段 (参考 2): <u>金持ち=モノの豊かさ=心の豊かな人間⇒幸福な人間なのか</u> 人間とは心豊かな生き物と思うか? という問いかけに対して、NO 派の意見。 人間は貧しいがゆえに、豊さを求めるとすれば、人間とは本質的「貧しい」存在なのではないか。 サービスからのアプローチ (テキスト学問力のすそめを活用) 奪い合う生き物か、分かち合う生き物なのか? 所有欲・支配欲が暴力を生みだすのか。 人間の本質には暴力がある? なぜ、人は暴力を愛するのか?

	テーマ5: インド映画『きっと、うまくいく』(後半 85 分)を観て: 富を求める経済人を観察する 内 容: 金持ちになりたい? ビジネス(経済的富の追求)は何のためなのか? インドからの答えとは? カネを稼ぐのが目的ではなく、稼いだカネを社会に還元すること(与える) (参考) インド経済人のチャレンジ: インドタタの挑戦—“ナノ”という世界一安い低価格車の登場(スモーク国民車インディカもタタによる) ラタンタタ会長: スクーターに乗る家族の姿をみて、夢が生まれた。そして、庶民に夢を与えたい! テーマ6: インド映画『きっと、うまくいく』を振りかえって: 富を求める経済人を吟味。 内 容: インド映画『きっと、うまくいく』を観て、自分たちに関わる問い(成功者とは)を立て、共創(コクリ)する。問い1: 人生の成功者は登場人物の中にいる? 問い 2: 成功者とは金持ちなのか<エクセレント(優秀)な人生?> (代替案) 「カネのための仕事」に対する判断基準(したい・したくないというモノサシ)と「青森(地元)に夢を与える仕事」に対する判断基準(できる・できないというモノサシ)をクロスすると何が見えてきたのか? 内 容: 「将来の夢」とは一体何か? 自己の幸せを願う自己実現的な夢なのか、他者の幸せを願う夢なのか。どちらを優先して今仕事(勉強)しているのか? これからも同じなのか? 仕事に対する欲求(動機)はおカネを稼ぐためか? となれば、仕事のやりがいとは二次的となる? あるいはカネ稼ぎが生きがいなのか? 仕事したくない⇒仕事したい シフト可能か? <u>仕事に夢がある＝仕事に哲学(生き方)必要なのか</u> (参考): 職業の選択の自由と立ちちはだかる壁とは? よい職業へのあこがれ、膨大な若者労働市場。職業選択の自由は拡大しているのか? カースト・フリーと言われるITソフト産業、職業選択の自由を阻む壁とは? <教科書・指定図書: 教員作成のレジュメ・資料による>
DAY 3 (12/23) 自転車 7～9 講 インドからブータンへ: 富から自己満足を求める快樂の旅 無関心となる暗闇の旅	テーマ7: インドからブータンへ: 幸福と自己満足を求める経済人を考える旅 内 容: ビデオ教材によって、幸福の国ブータンの経済人の素顔を知る 嵐・幸福の国ブータン、あるいはブータン幸福度調査を観て、共創する。 義務を守れば幸せになれるのか、 「幸せ」は一時的なのか (便利になれば、幸せになれるのか) (参考) 義務: タバコ禁止(義務)、伝統的民族服の着用の義務、森林保護の義務、建築デザインの規制(義務)など。仏教的幸福の方程式=財/欲望 ホント? ブータンの幸福感=日本人の幸福感(個人主義的)? ブータンは、自分+他者、現世+来世 御手洗瑞子(みたらい・たまこ)、[2012]『ブータン、これでいいのだ』新潮社。 ・ブータンの幸福観を受け入れられるのか、 ・幸福な国ブータンの経済人を鏡として: カネ持ち、モノ持ちとなれば、幸せになれるのか? ◎義務を守り、カネ・モノを愛すれば、幸せになることができるのか 貧しい国の幸福な経済人⇔豊かな国の不幸な経済人? 首相の説(幸福≠喜び)? 喜び⇒快樂では? テーマ8: ブータン幸福度調査に関するビデオをもとにキャッチボール 内 容: ブータンの経済人の幸福観を知ること。 心豊かであれば幸せとなるかもしれないが……今は幸せですか? 「心の豊かさ」を求めていますか? (富から自己満足する快樂の旅—幸福度世界マップと先進国日本の事例): (参考2): 経済的富を手にした人間は幸福になれるのか? 富を得た人間のゴールは自己満足なのか? やる気を失う現代日本、ほんとか? 満足=幸福なのか? 満ち足りる満足と満ち足りない満足があるのでは? 物質的富の拡大は幸福度をアップさせるか? 人間の幸福追求は地球を不幸にするのか? (人間の幸福マップと不幸な地球マップ) 幸福大国ブータンから問題発見。

	テーマ9:ブータンの経済人の幸福:理想と現実は同じなのか? 内 容:ブータン幸福度調査の結果をもとに、共創する。 <教科書・指定図書: 教員作成のレジュメ・資料による>
DAY 4 (12/24) エバの誕生 10～12講 ブータン: 無関心がもたらす束縛(貧困)への暗黒の旅	テーマ10:ブータンの経済人から:「幸せはどこに?」 満足の中に? それとも愛の中に? <一昨夜はクリスマスイブでしたね。いつアダムは生まれたか?> 内 容:「満足」する意味を考え、幸せとなるか否かという判断基準を明確にする。 (参考)「満足」する=精神的に満たされ、物質的に足りていること(仮説)。 テーマ11:満足する生き方と「足るを知る」生き方:どちらの道を選ぶか 内 容: 満足する生き方の対極にある「足るを知る」生き方を明らかにする。 「足るを知る」生き方を実践すれば、愛欲から解放される? 愛と愛欲の違い。 <u>自分を犠牲にしても愛したい「何か」を持っていますか?</u> 自己愛の対極にある愛。 例えば、鶴のために自分の快適さ(欲望)を犠牲にしてもよいと考えるブータン人のように。 テーマ12:「自己満足すれば、幸福になれるのか? 自己満足すると、無関心となるのはなぜ? (参考)日本:生きづらい、無関心な人間が増えているのか? 「海外」に向き合っているのか? アフガニスタンを支援する日本人医師の挑戦:「飢え渴きは薬では治せない」 「ODA(政府開発援助)」に無関心な日本人。海外人材育成に税金を支払うことは意味があるのか? 「日本」は海外で受け入れられているのか? 品質重視の日本的経営の事例。批判される過労死、ストレスというワーキングライフ。過酷なIT産業のワーキングライフの実態に迫る。 「インドでは、この仕事についている限り、結婚はできない」という悲鳴の声。 <教科書・指定図書: 教員作成のレジュメ・資料による>
DAY 5 (12/25) 帰還 川はなぜリッチ? 13～15講 インド・ブータンからの帰国 「心の貧しさ」(束縛)と自我からの解放の旅	テーマ13:インド・ブータンからの帰還:貧しき経済人が人生に求めてきたもの:自由・富・満足する生き方:その行きつくところとは、無関心と束縛。では、貧しき経済人は、何を求めて生きればよいのだろうか? 「病者の祈り」にみる祝福された貧しき経済人にそのヒントがあるのでは。 内 容:経済人は何を求めて生きているのか? 経済人は、ほんとうの自由、ほんとうの豊かさに出会えるのだろうか? 科学的アプローチと宗教的アプローチを問う: 真理はどこにあるのか? 真理は体験して知るものでは? テーマ14:「カイゼン」と「ジュガード」を実践する(経済人ではなく)共創人を目指して 内 容: 心貧しき者経済人にとってのよき知らせ。共創空間に秘められた宝を明らかにし、共有化する。 テーマ15:貧しき経済人をめぐる共創の旅の総括: 内 容:急成長するインド・幸福の国ブータンから、どんなメッセージを得たのか? <u>「共創」の視点から、その人間観、特に貧しき経済人の生き方(way of life, lifestyle)を問題とし、新たな判断軸(共創マインド):身についていますか?</u> 自分の生き方にインパクトがあったのか? 共創の旅からのプレゼント:1+1=9(の宝) ・「貧しき経済人をめぐる共創レポート」作成にあたっての確認。 <教科書・指定図書: 教員作成のレジュメ・資料による>

試 験: 「共創」レポート(「共創空間」を活用した授業の成果をまとめたもの) 提出期限:2023年1月23日(予定)